

2021年12月05日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒337番（旧31番）

『知恵の力』

聖書⇒ルカによる福音書1:46~56節（MT姉）

『そこで、マリアは言った。「わたしの魂は主をあがめ、  
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを  
幸いな者と言うでしょう、

力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、  
その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。

主はその腕で力を振るい、／思い上がる者を打ち散らし、  
権力ある者をその座から引き降ろし、／身分の低い者を高く上げ、  
飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。

その僕イスラエルを受け入れて、／憐れみをお忘れになりません、  
わたしたちの先祖におっしゃったとおり、／アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」  
マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った。』

礼拝讃美歌⇒175番（共95番）（MT姉）

『わが心は』

聖書⇒ヨハネの手紙一4:7~10:章（ES姉）

『愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。』

讃美歌⇒274番（旧302番）

『御国に住まいを』

《パン裂き》

聖書⇒マルコによる福音書 14:22-25:節 (KH 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。』

礼拝讃美歌⇒142 番 (旧 58 番)

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒イザヤ書 7:14、9:5:節 (KH 兄)

『それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ。』

聖書⇒マタイによる福音書 1:23:節

『「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。』

聖書⇒イザヤ書 8:22~9:1:節節

『地を見渡せば、見よ、苦難と闇、暗黒と苦悩、暗闇と追放。今、苦悩の中にある人々には逃れるすべがない。

先に／ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが／後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた／異邦人のガリラヤは、栄光を受ける。闇の中を歩む民は、大いなる光を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。』

聖書⇒マタイによる福音書 4:12~16:節

『イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、／湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、／異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、／死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。』

聖書⇒サムエル記下 23:1~7 節 (EK 兄)

『以下はダビデの最後の言葉である。エッサイの子ダビデの語ったこと。高く上げられた者／ヤコブの神に油注がれた者の語ったこと。イスラエルの麗しい歌。主の霊はわたしのうちに語り／主の言葉はわたしの舌の上にある。イスラエルの神は語り／イスラエルの岩はわたしに告げられる。神に従って人を治める者／神を畏れて治める者は太陽の輝き出る朝の光／雲もない朝の光／雨の後、地から若草を萌え出させる陽の光。神と共にあってわたしの家は確かに立つ。神は永遠の契約をわたしに賜る／すべてに整い、守られるべき契約を。わた

しの救い、わたしの喜びを／すべて神は芽生えさせてくださる。悪人は茨のようにすべて刈り取られる。手に取ろうとするな。触れる者は槍の鉄と木を満身に受ける。火がその場で彼らを焼き尽くすであろう。』

聖書⇒詩編 93 編

『主こそ王。威厳を衣とし／力を衣とし、身に帯びられる。世界は固く据えられ、決して揺らぐことはない。

御座はいにしえより固く据えられ／あなたはとこしえの昔からいます。

主よ、潮はあげる、潮は声をあげる。潮は打ち寄せる響きをあげる。

大水のとどろく声よりも力強く／海に砕け散る波。さらに力強く、高くいます主。

主よ、あなたの定めは確かであり／あなたの神殿に尊厳はふさわしい。日の続く限り。』

礼拝讃美歌⇒414 番（聖 525 番）

『いとも畏し』

《建徳要旨》

- ① **イザヤ 9 章 1 節**：闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。700 年も前に、その誕生が預言されていたイエス・キリストは、罪からの救い主として、闇と死に覆われた世に父神から遣わされました。大いなる光、平和の君として、インマヌエル＝神・我らと共に在す御方として。キリストがカファルナウムに移り住まれたのは、そこが死の陰の地だったからです。ガリラヤ湖周辺は亜熱帯気候で、マラリヤがしばしば発生し、多くの人が亡くなった所。だから神は、時が満ちたその日に、独り子イエスを救い主として地上に遣わされたのです(マタイ 4 章 12～16 節)。イザヤは誕生だけでなく苦難の僕として十字架にかかられる預言を 53 章で、更に 65 章、66 章では新しい天地が創造される世の終わりについても預言しています。救い主の誕生、十字架の死、更には、主の再臨による新しい世界まで預言しています。（K・H）
- ② **詩編 93 編**：新天地を求めてアメリカに移住したピューリタン達は、慣れない土地での厳しい生活のため半数が亡くなったが、先住民の助けでやっとの事で生活出来るようになったことを感謝して祝ったのが、Thanksgiving Day の始まりです。その後、一年の終わりに当たり、豊かな収穫を含む神様からの祝福を感謝して、家族友人と祝う日として定着し、今に至ります。そしてその三日後に、アドベント（待降節）が始まります。イエス様の降誕を待ち望む 4 週間となります。週毎に「希望」「平和」「喜び」「愛」というテーマが設けられています。イスラエルの片隅で人知れず生まれた赤ちゃんが、これらのメッセージを携えてこの世に来てくれたのです。これこそがクリスマスのメッセージであり、私たちクリスチャンはこれらの教えをもたらした主にしっかりと立って前へ進んでいきたいと思えます。（E・K）